

4 温室効果ガスの排出の状況

計画期間 3 年度目（令和 6 年度）の温室効果ガス排出の状況

①エネルギー起源二酸化炭素の排出量		4,089	t-CO ₂
（温① 二室を 酸効除 化果く 炭ガ 素換排 算） 排出量	②非エネルギー起源二酸化炭素（③を除く。）		t-CO ₂
	③廃棄物の原燃料使用に伴う非エネルギー起源二酸化炭素		t-CO ₂
	④メタン		t-CO ₂
	⑤一酸化二窒素		t-CO ₂
	⑥ハイドロフルオロカーボン類		t-CO ₂
	⑦パーフルオロカーボン類		t-CO ₂
	⑧六ふっ化硫黄		t-CO ₂
	⑨三ふっ化窒素		t-CO ₂
	⑩エネルギー起源二酸化炭素（発電所等配分前）		t-CO ₂
	温室効果ガス総排出量（①～⑩合計）		4,089

5 温室効果ガス排出量の抑制に係る目標の達成状況

(1) 温室効果ガス排出量の抑制目標の達成状況

温室効果ガスの抑制の目標設定方法	原単位排出量
------------------	--------

項 目	基準年度の実績		目標		計画期間の実績					
	令和 3 年度		令和 6 年度		令和 4 年度	令和 5 年度	令和 6 年度			
温室効果ガス 総 排 出 量		t-CO ₂		t-CO ₂		t-CO ₂		t-CO ₂		t-CO ₂
削減率（対 基準年度）			%		%		%		%	
温室効果ガス みなし総排出量						t-CO ₂		t-CO ₂		t-CO ₂
削減率（対 基準年度）					%		%		%	

項 目	基準年度の実績		目標		計画期間の実績					
	令和 3 年度		令和 6 年度		令和 4 年度	令和 5 年度	令和 6 年度			
原単位あたりの 排 出 量	0.3172	t-CO ₂ / 件	0.3077	t-CO ₂ / 件	0.3102	t-CO ₂ / 件	0.3084	t-CO ₂ / 件	0.2929	t-CO ₂ / 件
削減率（対 基準年度）			3.0 %		2.2 %		2.8 %		7.7 %	
原単位あたりの みなし排出量						t-CO ₂ / 件		t-CO ₂ / 件		t-CO ₂ / 件
削減率（対 基準年度）					%		%		%	

(2) 進捗状況に対する自己評価（目標の達成／非達成の理由）

電気についてはほぼ横ばい、ガスについては火葬件数に比例して増加したためエネルギー消費量は増加したが、年度中に運用体制の変更があったため火葬件数が増加し効率が向上した。

- 備考1 温室効果ガスの排出の状況のうち、エネルギー起源二酸化炭素を除く温室効果ガスの排出量については、温室効果ガスの種類ごとに3,000トン以上の場合に限り計上してください。
- 備考2 温室効果ガス総排出量とは、エネルギー起源二酸化炭素の排出量と、種類ごとに3,000トン以上の温室効果ガスの排出量の合算をいいます。
- 備考3 原単位あたりの排出量とは、事業活動の特性を的確に示すものとして事業者自らが選択する工場等の床面積、製品の出荷量その他の指標になる単位量あたりの温室効果ガス排出量をいいます。
- 備考4 温室効果ガスみなし総排出量とは、温室効果ガス総排出量に対し、クレジット等の環境価値に相当するもの及び再生可能エネルギー等の利用による温室効果ガスの削減量等を調整したものをいいます。

6 温室効果ガスの排出の抑制に係る措置の実施状況

(1) 自らの事業活動に伴い排出される温室効果ガスの抑制に係る措置の実施状況

取組の区分	具体的な取組の内容	取組の目標	取組の実施状況
・空調機停止 ・無料休憩所、喫茶のロールスクリーン及び有料休憩室のカーテンの閉止	・利用しない棟の空調機停止、適切な温度管理によるこまめな空調発停操作の実現 ・ロールスクリーン、カーテンを利用時間外は閉止する事によって空調負荷の低減を図る。	省エネ及び温室効果ガス総排出量削減達成を目標とする。	計画書の取組内容の通りに実施することが出来た。・開場日334日・休場日31日
冷暖房機器の電力、ガス使用量削減	・利用終了時間を考慮して空冷チラー、冷温水発生機を早めに停止させ余熱を利用する事によりロス低減を図る。 ・タイマー活用による消し忘れの防止	省エネ及び温室効果ガス総排出量削減達成を目標とする。	計画書の取組内容の通りに実施することが出来た。
照明器具の間引きをして電力量削減を実施	1階炉機械室やファンルーム室や事務室で、作業に支障のないような場所の蛍光灯の間引きを実施。	省エネ及び温室効果ガス総排出量削減達成を目標とする。	計画書の取組内容の通りに実施することが出来た。
大便器便座の温度設定を下げる	・大便器便座及び温水の温度設定を季節に応じ変更する。 ・便座に蓋のあるものは、蓋を閉めるように利用者へ促す。	省エネ及び温室効果ガス総排出量削減達成を目標とする。	計画書の取組内容の通りに実施することが出来た。
自動車等輸送機関に関する対策	・急発進、急加速を控え、アイドリングストップの確実な励行等エコドライブを推進する。 ・駐車場壁面へアイドリング禁止看板を設置済み ・電気自動車を導入済み。	温室効果ガス総排出量削減を目標とする。	計画書の取組内容の通りに実施することが出来た。

(2) 再生可能エネルギー及び未利用エネルギーの利用の状況

ア 計画期間 3 年度目（令和 6 年度）における利用の状況

導入年度	設備等の種類	概要（規模、性能、発生エネルギー量等）
平成27年	太陽光発電設備	出力20kw 年間18927kwh

イ 上記のうち、他のものに供給した電力及び熱

区分	再生可能エネルギーの種類	温室効果ガス換算量（みなしの削減量）
電力		t-CO ₂
熱		t-CO ₂

(3) 環境価値（クレジット等）の活用状況

計画期間 3 年度目（令和 6 年度）におけるクレジット等の利用

クレジット等の種類	創出地	温室効果ガス換算量（みなしの削減量）
		t-CO ₂
		t-CO ₂
		t-CO ₂
		t-CO ₂

(4) みなしの排出量の算定に利用した温室効果ガス換算量（みなしの削減量）の合計

t-CO ₂

(5) その他の地球温暖化対策に係る措置の実施状況

<p>計画書どおりに実施できたが、施設の運用体制の変更に伴う課題が発生した。デマンド電力の発生時刻や、設備の稼働時間の延長に伴う電力量の増加などを把握する必要がある</p>

(6) 「環境保全の日」等に特に推進すべき取組の実施状況

<p>環境保全の日に齋場内の巡視を行い、無駄に点灯している照明の消灯、必要のない稼働機器の停止するなどの取り組みを実施した。</p>
